

4月17日に、本校3年生122名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果をまとめました。本調査は、国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 生徒質問紙調査より

生徒質問紙調査より、本校と京都府や全国とで10ポイント以上の顕著な差がみられた項目について、校内で検証した結果をお伝えします。

Q 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

下鴨中	よくある	59.0%			
京都府	〃	47.5%	全国	〃	46.4%

Q わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

下鴨中	できている	36.9%			
京都府	〃	25.5%	全国	〃	27.4%

上記の回答が顕著ですが、他の多くの回答からも下鴨中学校の生徒が、毎日の生活に対して満足した上で、主体的・肯定的・積極的に過ごしていることがわかる結果となりました。今後もご家庭と学校が協力して生徒たちの良いところを伸ばしていけるように取り組んでいきたいと思ひます。

Q あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。

下鴨中	100冊以上	55.8%			
京都府	〃	30.8%	全国	〃	27.2%

Q 新聞を読んでいますか。

下鴨中	ほぼ毎日	6.6%	週に1〜3日	11.5%
京都府	〃	1.7%	〃	4.1%
全国	〃	1.6%	〃	4.1%

Q 学校の授業以外に普段(月曜日から金曜日)1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍を含む、教科書や参考書、雑誌は含まない)

下鴨中	30分以上	34.5%			
京都府	〃	19.8%	全国	〃	21.4%

家にある本の冊数や読書・新聞を読む習慣は家庭の教育力を表していると思ひます。これらの質問から、下鴨中の家庭教育力の高さがうかがえます。

他にも多くの質問がありますが、下鴨中の結果はおおむね良好なものでした。質問に関心がある方は、文部科学省や京都府、京都市教育委員会のHPよりご覧いただけますので、ぜひ今後の参考にしてください。

## 国語科より

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、共に京都府・全国平均を大きく上回る結果となりました。記述式の問題の正答率が高く、すべての問題で京都府・全国平均を10%以上上回っています。

「思考力、判断力、表現力」を問う「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる」「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる」「読み手の立場に立って、文章を整えることができる」問題が特に正答率が高く、京都府・全国平均を15%以上上回っています。また、無回答率が非常に低く、無回答率が0%の問題も多く、特に「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる」問題においては、京都府・全国平均を20%以上低い結果となっており、粘り強く問題に取り組む力がついていると考えられます。質問紙における「国語の勉強は好きですか」という質問をはじめ、国語に関するほぼすべての質問において「当てはまる」と答えた生徒は京都府・全国平均より高いが、「国語の勉強は得意ですか」という質問にのみ「当てはまる」と答えた生徒が全国平均を少し下回っています。今回の結果からも力をつけていることは確かなので、もっと自信を持ってほしいと思ひます。

## 数学科より

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の4領域すべてにおいて、全国平均を上回る結果となりました。特に「思考・判断・表現」の観点及び「記述式」の解答形式においては、全国平均よりも20%以上上回る結果となっており、数学の学習時に「解き方を考える」や「説明する」という取り組みを生徒たちが自ら行っている成果が表れていると考えます。一方で、本校の正答率としては高いものの「素数とは」「外角とは」といった数学的用語の理解が曖昧な生徒も見受けられるため、今後は数学的用語を積極的に用いて説明することができるよう学習を進めていきたいと考えております。

数学を実生活の中でも身近なものとして捉え、様々な場面で自ら課題を見つけ解決できることができるようこれからも一層頑張っていきたいと思います。

## 理科より

理科の全体の正答平均率は全校平均を10%近く上回る結果となりました。領域別で見ると「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の4領域すべてにおいて、全国平均を上回りました。特に「エネルギー」、「粒子」の領域で正答率が高い結果となっています。次に、観点別で見ると、「知識・技能」の正答率が高く、「思考・判断・表現」の正答率がやや低くなりました。また、問題形式の「記述式」では正答率が高いものも多く、全国平均との差が離れているものもありました。

この結果より、日ごろから理科の学習において、知識を増やしていくだけではなく、考える力も少しずつ身につけてきていると思ひます。今後はさらに身近な様々な場面と関連付けて学習を進めていき、自ら課題を解決できる力をつけていきましょう。